



クラウド・ブローカーを通じたハイブリッド IT

ビジネスの成果を強化するための道のり

目次:

- 2 ハイブリッド・クラウドの先へ
業界トップ企業向けのハイブリッド IT
 - 3 IT 構築者からハイブリッド IT ブローカーへ
 - 4 IBM® cloudMatrix が選ばれる理由
自動化され、整理されたセルフサービス
-

ビジネス・リーダーは出現する機会と脅威の兆候を慎重に評価しており、現在、今日、クラウドが彼らの目に留まりました。クラウドは変革的であり、混乱を生じさせる大きな可能性を提供すると同時に、多くの役員を魅了し、懸念させています。クラウドは明確な可能性だけでなく、明確なリスクもはらんでいます。

良い面を見れば、クラウドは IT を再構築する新しい方法、パフォーマンスやリスク軽減、コスト管理に対する新たな道のりを示します。ただし、クラウドの適用には課題もあります。クラウドには IT や新しいスキルに関する新しい観点、新しい考え方が必要です。応急措置を探している企業はそれらをクラウド内に見出すことができますが、応急措置は通常、長期的な成功の妨げとなります。

CEO は CIO に対し、ステップアップしてエンタープライズ IT のクラウド部となり、仕事を続ける代わりに価値の付加に向けたデジタル変革のイニシアチブのリーダーとなることを求めています。しかし、その転換は単純に容易ではありません。それに対し、多くの組織が変換のチャンスを追及する代わりに、戦術的な問題を解決し、クラウドに対する制限された臨時のアプローチを採用します。

しかしそれでは、ビジネスの成果を強化するための道のりとは程遠く、実際、長期的にアドホック実装によって技術的な複雑性の原因となり、メリットが制限され、さらに複雑性が生まれる原因となります。アドホック実装が収益の成長、コスト削減、リスク軽減の期待に応える対策になることはまずありません。CIO は成功に向けてアドホック・アプローチのみに頼ることはできません。



クラウドは、組織が系統的に検討して行動する際の現実的な、継続するビジネスの成功のための原動力となります。業界をリードする組織は可視性とコントロールを提供すると同時に、短期的に俊敏でインフラメンタルな進歩を可能にする、堅牢な戦略の価値と適応に対する道のりを示します。

ところが、解決する必要がある根本的な課題があります。多くの組織が、クラウド単体では IT 予算の方程式をコスト・センターからバリュー・チェーンに切り替えることはできないと認識しています。IBM の見解では、組織はクラウドを包括し、さらに上をいく別のアプローチを模索する必要があります。ガートナーはそれをハイモードル、またはハイブリッド IT と呼びます。¹

ハイブリッド IT はソースに関係なくソリューションの運用を統一する戦略的アプローチです。ハイブリッド IT を使用することで、組織は以下によって複数のソースを持つソリューションのデリバリーを標準化できます。

ハイブリッド・クラウドを上回る: 業界トップクラスのエンタープライズ向けハイブリッド IT

多くのベンダーやアナリストは、プライベート・クラウドの組み合わせ(ハイブリッド・クラウド)が障害を克服するための最先端のソリューションであると述べています。不完全であるという事実を除いては、ハイブリッド・クラウドに問題があるとは限りません。

現在の IT は 2 つのエコシステムまたはデータセンター・インフラストラクチャで構築されており、おおくの組織において、それらは独立して機能しています。専用データ・センターを管理する従来の組織的な社内 IT グループと IT アウトソーシング (ITO) パートナー、カスタム/パッケージ化されたアプリケーションとオペレーションを使用した現在のモデルは、ある程度仮想化またはクラウド化が可能かもしれませんが、完全に行うことはほぼ不可能です。また、エンタープライズ IT 設定を增強、拡張、加速化するために存在する、オフプレミスのクラウド IT インフラストラクチャに依存した、振興のアプローチもあります。

多くの組織にとって、ハイブリッド・クラウドは最終地点、つまり最善の結果のように思えます。しかしこれは正しくありません。ハイブリッド・クラウドはオフプレミスのクラウド・コンピューティングを、これまで長年使用してきたような、単なる別のデータセンターとして処理します。

ガートナーは、もう一つのアプローチである「ハイブリッド IT」を提案します。² 2 箇所のオフプレミス・クラウド・サプライヤーを活用するハイブリッド・クラウドと同様に、ハイブリッド IT はワークロードの要件やきめ細かいビジネス目的に合わせて、場所やパフォーマンス、機能やコストで選択した多くのクラウド・ベンダーをシームレスに統合するよう設計されているため、圧倒的なメリットを提供します。ハイブリッド IT は新しいテクノロジーに依存してクラウドに接続しています。データ分類やアプリケーションの関連性に対する洗練されたアプローチを必要都市、複数の場所や複数のクラウド管理にうまく対処し、サービス中心のアーキテクチャを提供します。技術の転換と同様に必要なのは、意識の転換と組織の転換です。

成功するハイブリッド IT 実装の考案や提供では結局、従来の IT とクラウド IT を評価・管理し、オンプレミスとオフプレミスのさまざまなサプライヤーのバランスを取り、ビジネスで新しい機能が必要になるとオンザフライで動的な選択を行うこととなります。成功のための 3 つの基本的な目標を達成するため、これらのタスクはすべて同時に平行して実行されます。

- ユーザーと顧客に対し、各アプリケーションとユーザーに適切なサービス・レベルを提供する
- アプリケーションのデリバリーを最適化し、IT オペレーションを整理、簡素化、自動化する
- 今後継続してビジネスの応答性を加速化するサービス中心の IT を可能にする

ただし、これらの目的には新しいアプローチが必要です。ソリューションはもはや全面的に社内(オンプレミス)に配置されるものではなくりました。テクノロジーはプロバイダー、リソース、ツールのエコシステムとなります。古い IT と新しい IT の間のやり取りを考案、モデル化、テスト、実装、改善する必要があります。テクノロジーの多くのソースを管理、統合し、オンデマンドをビジネスの俊敏性に方向付ける必要があります。範囲が広がったことにより IT は様々なサプライヤーや顧客と会社をつなげる必要が出てきました。これらすべてを、リスク回避や組織に与える影響のバランスを効果的に取りながら行う必要があります。

ハイブリッド IT はソースに関係なくソリューションの運用を統一する戦略的アプローチです。ハイブリッド IT を使用することで、組織は以下によって複数のソースを持つソリューションのデリバリーを標準化できます。

- 中断なしに既存のツールやリソースを活用する
- スピードと俊敏性を必要とするユーザーに新たな選択肢を提供する
- 技術投資、オンプレミスとオフプレミス、ホスト型、プライベートやパブリックの最適なバランスを使用して総合的にアーキテクチャに対応する

現在、IT はよりビジネスライクに運営し、マルチソースのモデルでベンダーの選択、パッケージング、価格設定、デリバリーや請求を管理する必要があります。この移行を成功させるため、IT に必要な投資は次のとおりです。

- セルフサービスと透明性 - クラウド・サービスとソリューションのクイック・アクセスや注文によって定義される、ビジネスと IT の新しい関係
- ビジネス・オペレーション - ソーシング、パッケージング、コスト管理、クラウドを新しく重要視する
- ベンダー/サプライ・チェーン管理 - 新しいサービスの達成と内部および外部プロバイダー全体での継続的デリバリー・モデル

ハイブリッド・クラウド・モデルはより多くの選択肢を提供しますが、最適なテクノロジーやビジネス要件の戦略選択を適切に解決できるわけではありません。さらに、大多数のハイブリッド・クラウド・ソリューションは主にパブリック・クラウドに焦点を当て、バランスの取れたアプローチを無視しており、既存のオンプレミス IT 投資を活用・投資できていません。ハイブリッド IT はパブリック、プライベート、仮想、ホスト型、オンプレミス/オフプレミス、リソース全体での計画や消費、デリバリー、管理を統合します。IT はユニファイド・ユーザーやハイブリッド・クラウドの体験を提供することはできません。一般的にこれはハイブリッド IT モデルを介してのみ提供できるということが、これを困難にし、恐れを抱かせる大きな原因となっています。

多くの組織は、多くの点で危険を伴う不明な状況であるため、ハイブリッド IT への移行を懸念しています。しかしこれは必要な段階です。この代わりとなるのは、ワークグループ、部署および部門別のアドホック IT 調達です。これでは IT が許容できないリスクやコスト、収益の不足が生まれるだけです。

ハイブリッド・クラウド・モデルはより多くの選択肢を提供しますが、最適なテクノロジーやビジネス要件の戦略選択を適切に解決できるわけではありません。

IT 構築者からハイブリッド IT ブローカーへ

ただし、多くの組織はハイブリッド IT を提供するためのサポートを必要としています。これは、ハイブリッド IT は様々なベンダーからの最良値のクラウド機能に依存しているためですが、卓越した長所や短所、異なるコスト構造、オフプレミスのクラウド機能を統合する異なる API を持つクラウド・ベンダーを管理するというマイナス面もあります。この複雑性は、多くの組織が求めている俊敏性の妨げとなります。その結果、多くの組織はハイブリッド IT の複雑性に対処し、管理するため、サードパーティのクラウド・ブローカーを検討しています。

クラウド・サービス・ブローカーの 3 つの主な役割や集約、統合、カスタマイズです。複数のクラウド・プロバイダーからのブローカー・パッケージ・サービスを集約することで、システム間でやり取りする企業データの相互運用性とセキュリティを確保できます。クラウド・ブローカーは複数のクラウド・サプライヤーのリスクが軽減され、コストとメリットが最適化されるようになります。

統合に焦点を当てたクラウド・ブローカーは、組織が複数のクラウド・サービスを調節するのに役立ちます。外部クラウド・サービス(どのようなものであっても)が従来のインフラストラクチャやアプリケーションと一緒に機能するよう、大きな編成スキームを考案し、管理します。優れたクラウド・ブローカーはカスタマイズに焦点を当て、IT が自分たちの明確なビジネス要件や技術要件を満たすサービスを探して調節できるようにします。また、クラウド・ブローカーは企業がクラウド管理ポリシーを定義・実装できるようにサポートしたり、プレミスペースのアプリケーションをクラウドに移行すべきかどうかを分析するなど、その他の重要な機能も達成できます。

ところが、ブローカー・プロバイダーから IT 組織に「指揮統制」の役割が返さない場合がよくあります。IT 組織は IT を管理する必要があり、そのために IT サービス・デリバリー・モデル全体をコントロールする必要があります。IT 組織はオンプレミスとオフプレミスの両方にある IT サービスのセットのブローカーを強化する必要があります。組織は社内外の顧客に外部クラウドのプロビジョニングに対する価格、容量、スピードを提供し、同時に会社が必要とするセキュリティと管理を維持し、IT のサービス・コストを削減するためにハイブリッド IT を構築します。

ハイブリッド IT 組織は古い組織モデルから基本的なビジネス機能(フロント・オフィス、バック・オフィス、そして新しい概念であるミドル・オフィス)かに沿った組織モデルへ移行しています。つまり、組織はサービスの提供方法、クラウドの統合、クラウドの管理方法をよりうまく反映できるよう IT 組織を再構築しており、管理部門はオンデマンドの IT が求められる最終的な目標という世界で管理する必要があります。IBM の記事である『ミドル・オフィスの探求』では、ハイブリッド IT の多くのメリットを実現するために IT 組織がどのような構造的進化を遂げているかの詳細について説明しています。³

簡単に言えば、IT 組織はハイブリッド IT の完全なメリットを手に入れるため、サービス・ブローカーになる必要があります。

IBM cloudMatrix が選ばれる理由 自動化され、整理されたセルフサービス

この記事の前半では、IT がマルチソース・モデルでのベンダーの選出、パッケージング、価格設定、デリバリー、請求を行い、よりビジネスライクなオペレーションを行わない限り、ハイブリッド IT インフラストラクチャの成功は実現できないと説明しました。クラウド・ブローカーはこれらのタスクに役立ちますが、コンサルタント会社において構築された手動のアプローチを活用していることが多く、結果が出るまで時間がかかり、継続的な関与が必要となる場合があります。

IBM と他社の違い

IBM は統合クラウド・ブローカー・ソリューションを提供した最初の企業の 1 つです。IBM は組織がマルチソースの環境に対応するため、計画、消費、デリバリー、管理を統一できるようお手伝いします。IBM cloudMatrix はお客様と共に成長し、組織が以下を実現できるよう支援することで、ハイブリッド IT を提供するための道りをサポートします。

- 手動の IT ビルダーからビジネスの影響を最適化する自動ブローカーを使用する IT 組織へと進化する
- お客様の具体的な要件に「最適な」オフプレミスのクラウドを使用することで、1 日目からスピードと俊敏性を提供する
- 短期的および長期的なビジネスの条件に沿った、適応可能で迅速なアーキテクチャを提供する

しくみ

IBM cloudMatrix は、多くのクラウド・プロバイダーのセルフサービスの自動ビューを提供します。各クラウド・プロバイダーの見直しや監査ができる卓越したテクノロジーです。長所と短所を評価します。コスト構造や複雑な契約を明確化することで、組織は長所や短所、長期的な価値を明確に把握できます。さらに、IBM cloudMatrix はクラウド・ベンダーとの既存の契約関係を迅速に統合できるフレームワークを提供します。

IBM cloudMatrix は、クラウドが IT バリュー・チェーンにもたらす課題を解決すると同時に、ハイブリッド IT を実現できるよう設計されました。動的なマーケットプレイスのサポートによりプロセスの複数のステップを解決しながら、IBM cloudMatrix では以下を実現できます。

- サービス・プロバイダーへ正確でタイムリーなアクセスをサポートし、選択した環境を提供する
- オープン API 経由で既存のサービス管理ツールを使用し、マルチソースのソリューションのデリバリーを促す
- 設計から請求まで注文を 1 つのシステムで追跡できるようにし、アプリケーション、仮想データセンター、事業部門による集中管理やコスト管理を可能にする

IBM cloudMatrix の真のメリットは、組織が抽象的なクラウドの複雑性からクラウドの価値に向かって進めるようサポートするということです。IBM cloudMatrix はベンダーの RFP やテクノロジーの比較で身動きが取れなくなるよりも、短期的および長期的な目的に基づいた迅速な選択を提供します。IBM cloudMatrix を使用することで組織やユーザーは、数週間単位ではなく数分間で十分な情報を得た選択を行うことができます。ユーザーはサプライヤーの審査やテクノロジー統合の管理を行う必要がなくなり、IBM cloudMatrix がユーザーの要件や目的ごとに、ユーザーに代わって複雑性を整理します。

ただし、IBM cloudMatrix に対する別のメリットもあります。組織には、緊急用権威対処する余裕が生まれ、戦略的な意思決定のためのリソースやエネルギーが解放されます。ハイブリッド IT は、組織が系統的に検討して行動する際の現実的な、継続するビジネスの成功のための原動力となります。必然的に、IT 主導の一貫したビジネス全体での適応戦略がなければ、予期できない結果と意図せぬ結果が発生し、困難の原因となる可能性があります。指導者チームはクラウド・テクノロジーの評価に陥り、ランダムでアドホックな努力や機会を開始し、桁外れの大きな結果を生み出す機会は手の届かない場所にとどまります。

次の質問を尋ね、IBM cloudMatrix の機能を評価してください。

- IBM はユーザーが サービスとしての IT を活用できるセルフサービスのフレームワークを提供できますか？
- IBM cloudMatrix は動的で消費主導の IT のマルチソーシングを提供できますか？
- IBM cloudMatrix は CapEx 主体から CapEx + OpEx へ迅速に転換することができますか？
- IBM cloudMatrix は社内外のプロバイダーの調整を行うことで、注文の達成を自動化できますか？
- IBM cloudMatrix は、お客様の IT 組織が単なるハイブリッド・クラウドではなくハイブリッド IT に向けて変化するのに役立ちますか？

業界をリードする組織にとって、クラウド・テクノロジーへの切り替えはおそらく必要な変化です。戦略的なビジネス目的に対するサポートではなく、テクノロジーとしてのクラウドに飛びつくことは、おそらく正しいアプローチではありません。組織はパフォーマンスや効率性に基いてクラウドを評価する代わりに、ビジネスの関連性や長期的ビジョン、マーケットプレイスへの短期的な動きを測定するための質問を行う必要があります。成功する組織はクラウドを使用してイノベーションを加速化、差別化をサポート、新しい市場を開拓、顧客との関係を強化、応答性を改善します。

IBM cloudMatrix を使用することで、IT を変化させ、イノベーション、収益、ビジネスの成功の原動力となる素晴らしいチャンスを手にすることができます。IBM と連携することで、変化し続ける市場環境に適応できる、将来を見据えたより俊敏な組織とすることができます。

企業戦略グループの上級アナリストである Wayne Pauley は、クラウド・サービスの概要 - クラウド管理の供給で次のように述べています。

「一部のクラウド・サービスを実装している企業やそれを検討している企業は、Gravitant 製品の cloudMatrix は真剣に考慮するべきです。クラウド・コンピューティングは IT に対する膨大な量の期待を保有し、ESG 調査によって、その転換がどれほど顕著かが明らかになりました。Gravitant は大規模なサービス企業の実装失敗として始まった、国内最大級の州で大規模なシステムの実装を行いました。Gravitant のソリューションにより、州は 30 ~ 40 パーセントのインフラストラクチャ・コストの削減を実現し、1 週間以上かかっていたプロビジョニング機能をほぼリアルタイムまで短縮しました。」⁴

著者について

Mohammed Farooq は IBM の卓越したエンジニアです。彼は 18 年以上 IT 業界に携わり、エンタープライズ・ソフトウェアを提供する成功した起業家と顧客の両方を体験しています。彼は 40 億ドルの IT 企業である Texas Health and Human Services の代理店で CTO を 7 年間務め、運用コストを削減しながら 300 万人以上のテキサス市民をサポートする CRM システムの返還を成功させました。

Farooq 氏はハイブリッド・コンピューティングの指導者として認識されています。連絡先: mohammed.farooq@us.ibm.com

詳細については、
<https://ibm.biz/brokerageservices> を参照してください



© Copyright IBM Corporation 2016

IBM Corporation
Software Group
Route 100
Somers, NY 10589

Produced in Japan
May 2016

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、および Gravitant は、世界の多く国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、「著作権と商標情報」(ibm.com/legal/copytrade.shtml)をご覧ください。

本資料は最初の発行日の時点の内容であり、予告なしに変更される場合があります。当文書の情報は最初の発行日の時点で得られるものであり、IBMは予告なしに変更を加える場合があります。すべての製品、サービスが、IBM が営業を行っているすべての国において利用可能ではありません。掲載されている製品・サービスは IBM がビジネスを行っているすべての国・地域でご提供可能なわけではありません。

本資料の情報は「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性に対する保証、および非侵害の保証または条件を含め、いかなる明示的または黙示的な保証も行いません。

日本 IBM 製品は日本 IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

確実なセキュリティー体制への取り組みについて:IT システムのセキュリティーでは、社内外の不適切なアクセスの防止策、検出、対応に取り組むことで、システムと情報を保護しています。不適切なアクセスにより、情報が改ざん、破壊、または不正利用される可能性があり、システムへのダメージや他者への攻撃といったシステムの悪用が生じることがあります。IT システムまたは製品によってセキュリティー対策が万全になると考えることは危険であり、1 つの製品またはセキュリティー対策で不正アクセスを完全に有効に防ぐことはできません。IBM のシステムと製品は、包括的なセキュリティー・アプローチの一部として設計されています。そのため、運用手順を追加することがどうしても必要となり、効果を最大限に高めるには、他のシステム、製品、サービスが必要になることがあります。IBM は、システムと製品が他者による悪意のある行為または不正行為から免れることを保証するものではありません。

1 "Gartner Says Hybrid IT is Transforming the Role of IT", Gartner 社、2012 年 3 月 5 日、<http://www.gartner.com/newsroom/id/1940715>

2 Ibid, 2012 年。

3 "Exploring the Middle Office", Gravitant 社 (IBM Company)、2015 年、<http://www.ibm.com/common/ssi/cgi-bin/ssialias?subtype=WH&infotype=SA&htmlfid=ASW12363USEN&attachment=ASW12363USEN.PDF>

4 Pauley, W. 著、Cloud Services Brief, Supply Cloud Management (SCM), Enterprise Strategy Group, Inc., 2013 年 2 月、<http://resources.gravitant.com/3rd-party-reports/cloud-services-brief-supply-cloud-management/>



リサイクルにご協力ください